

富山県「高等学校教育改革実行計画」の策定に向けて

～第2回検討会～

富山県教育委員会 教育みらい室（高校教育充実強化担当）

<主な意見>

1 新たな学びの形の構築・生徒の個性を生かす進路支援

将来を見据えた学びの基盤と探究の深化

- 学習への真剣な態度が大事、探究には各教科の積み上げが必要
- STEM人材の育成において、技術（T）と工学（E）の分野を高校教育でも扱うことを考えていくべき
- 探究の導入に「遊び」を取り入れて自分を知る機会をつくること
- 「問を疑う」ことも大事
- 探究のテーマの幅を広げること、オンライン等を通じた県外・海外との交流で新たな視野や価値観を得る機会を
- 最初から文理を区別しない探究活動の実施
- AIに依存せず自ら考えるためのヒントを得るという使い方の模索
- 主体的な学び、協働的な学び、多様な学びを大胆・柔軟に展開するため、連携、探究、AI・デジタルとう観点から考えていく必要

生徒本位の柔軟なカリキュラムと進路選択

- 1年生での文理選択が難しく、不安を感じるため、文系や理系を両方学べる期間を設け、後悔のない進路選択ができる制度があると良い
- 総合学科の探究系列でも簿記や情報処理を学べるような幅広い選択、農業に着目した活動、進路選択に役立つ出前講座の充実
- 大学進学と専門的な学び（保育やスポーツ等）の双方を視野に入れられる柔軟な系列選択
- オープンスクールや先輩に学ぶ会など子ども達が本物に触れる場の充実、中高の教員が一緒になって地域の子どもの学びを考える機会を持つことが大事
- 女性理系進学者のロールモデルの提示
- 生徒自身の進路の解像度を上げるための大学・地域との連携による体験が大事
- 教員の意識改革による進路指導のアップデート

<主な意見>

2 社会との共創・持続可能な教育環境の整備

地域・産業との協働による「本物の体験」

- 民間との協働を通じた「本物の学び」により、夢や目標を持つ生徒が増え、社会貢献意欲も向上
- 商業の枠組みを用いた地域の課題解決で、生きる力を育成。大人側がリスクを許容し、本気で伴走する体制が鍵
- 社会の仕組みを知るため、子ども扱いせず多様な大人や生き方を知ること、エッセンシャルワークへの関心を高めることが必要
- 短期にとどまらない長期的なインターンシップなど仕事に対する認識を持つ機会の拡充
- 富山の歴史や風土が育んできた産業（農業、土木、薬など）を基盤とした、足元を見据えた教育
- 社会で使う力を育む「産業連携型高校」の創設、産業界からの講師の派遣

多様な連携による教育体制の構築

- 2040年の社会を見据えたバックキャスト視点で、多様なステークホルダーと一緒に考え、協働するチーム富山としての仕組みの構築
- オンライン等を活かした学科や学校を超えた学び合いなど、トータルで生徒の学びを支えていく発想も必要
- 徹底的な専門家の活用による共創
- 高等教育機関の役割を明確にした高大連携を全体としてデザインしていくことが必要
- 教育現場の時間・場所・機会など教育現場で足りないものを、小中高の連携や社会のリソースの活用など県全体で作っていく仕組みづくり
- 教育改革は大人の意識改革から。新しいものを創り出すワクワク感と、生徒・教員の主体性を引き出すことが重要

(参考) 探究学習やキャリア教育に関する取組み

・ 次世代創出PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）推進事業

県立学校での探究型・課題解決型学習を推進するため、①STEAM教育推進、②地域創造推進、③学校課題実践、④学校間連携の分類で取組みを支援

・ とやま探究フォーラム

探究的活動の一層の充実を図ることを目的に、各学校で進めてきた探究活動の成果を発表するフォーラムを富山大学と共催

・ 探究支援研修会

生徒が探究を深めていくための支援力の向上を目的とした探究活動の各場面をテーマとした研修

第1回：「課題設定の過程を体験する」（9/29、富山中部高校で開催）

（今後の予定）第2回：10/29「企業連携探究を体験する」（場所：富山いずみ高校）

第3回：11/4「気づきを促す声掛けを体験する」（場所：高岡高校）

第4回：11/27「探究の評価を体験する」（場所：砺波高校）

・ 「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』事業」

インターンシップ等体験活動を推進し、全ての県立高校でキャリア教育の充実を図る

（1）アカデミック・インターンシップ

富山大学、富山県立大学、富山国際大学、富山短期大学、富山福祉短期大学で、大学教授や学生等から指導を受けながら、実験・実習・演習を体験

（2）地域産業発見探訪

県内企業や産業観光地などでの見学、実技体験

（3）職業系専門学科チャレンジ推進

アントレプレナーシップの醸成や学科間連携の推進に資する実践的な体験活動等の取組みを支援

(参考) 地域構想推進プラットフォームについて

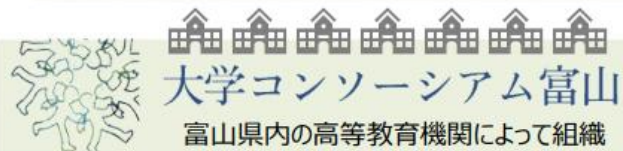
事業の概念図

富山県では、全国に先行する人口減少・少子高齢化、若年層の県外流出、2040年に向けた産業・地域生活基盤人材の需給ミスマッチが同時に進行している

産業イノベーション人材育成等に資する
高等学校等教育改革促進事業 富山県内 2校が採択
全国初採択

富山県では、これらに対応するため、**高校改革を全国に先駆けて実施**
県基幹産業との接続強化を目指し、理系人材確保の質的転換
学外のリソースを活用した多様な学びの拠点

高等教育機関を巻き込み、**県全体としての教育機能の再配置**



富山県の持続可能な地域社会、産業競争力、生活基盤を支えるため**再構築**

地域にとって真に必要な魅力ある高等教育機関へのアクセス確保のため、
各地域の大学間・産学官金等間の連携推進方策を講じる必要

中高生など若年層から社会人へと至る早期かつ切れ目のない育成ラインへ転換



申請時

富山県地域構想推進プラットフォーム検討委員会

令和8年度中
設置・登録

富山県地域構想推進プラットフォーム（仮称）

令和8年度初めは、大学コンソーシアム富山の構成メンバーに加え、**富山県や富山県教育委員会、経済団体（金融機関も構成員として含む）等**、将来の「富山県地域構想推進プラットフォーム（仮称）」構成員を含めて設置した検討委員会で、**プラットフォームの設置や実践する取組み等について検討を進める**

検討委員会での検討を踏まえ、より実効的な取組みとなるための**構成員の追加**や実施する取組みについて、高等教育機関や県内自治体、経済団体、関係省庁等からの「データ」に基づき、**エビデンスベースでの産学官金等の共通認識を形成した**上で、エビデンスに基づいた取組みについてPDCAサイクルを構築しながら実施

全国に先駆けて進めている「N-E.X.T.ハイスクール構想」

高校教育改革の取組みと連携

○高校教育改革と連動した中高大接続・県内進学促進の取組みを実施

・高校教育改革を入口に、県内進学・県内就職・地域定着までを一体的に育成



エビデンスベースで議論を進めることで人材確保・活躍の富山モデルを構築

○富山県独自の労働需給シミュレーション

・2040年に103,591人の労働人口不足
・生活維持サービスに労働力不足が発生

○地域未来戦略（戦略産業クラスター、地域産業成長プラン）への対応

・マテリアル、バイオ・医薬品、半導体等の産業人材確保

○「富山県総合計画」に沿ってエッセンシャルワーク業種等における人材確保・育成を図る

産学官金連携による

地域定着・リスキリングの推進

○地域企業と連携したキャリア形成支援

・地域産業の発展のため、地域の強みを伸ばす社会人教育の実施や、教育機関の強みを活かした新産業創出を支援

・インターン等県内企業と学生との接点創出

○産業人材の育成・還流・定着

社会人の学び直しを通じた
地域経済の活性化



高校教育改革から高等教育改革、リスキリング、地域定着までを**一体化し**、富山で学び・働き・活躍し続ける人材循環を構築

(参考)

高校改革の 先導拠点の創出

高等学校教育改革促進基金の創設 ～N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクール※構想～

令和7年度補正予算額

2,955億円



※N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

「強い経済」を実現する総合経済対策 (令和7年11月21日 閣議決定) 抜粋

第2章 「強い日本経済実現」に向けた具体的施策 第1節 生活の安全保障・物価高への対応 (6) 公教育の再生・教育無償化への対応 (教育無償化への対応)

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から 2025 年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン 2040 (仮称)」に沿った**緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援する。**

課題

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、**地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念**されるところであり、**産業イノベーション人材の育成が重要。**
- 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化 (2040年には高校1年生が約36%減少)。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、**地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要。**

①産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業 令和7年度補正予算額 2,950億円 支援期間：3年程度

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた
高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、**取組・成果を域内の高校に普及**する。

事業内容

改革先導校の類型

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等 育成支援

- ❑ 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- ❑ 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得**に向け、**探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

理数系人材育成支援

- ❑ 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- ❑ 先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ**、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた**文理融合の学び**を実現する。

多様な学習ニーズに対応した 教育機会の確保

- ❑ 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、**一定の生徒数の規模を確保した学びを提供することが必要。**
- ❑ 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした学びや遠隔授業を活用した学び**の提供を実現する。

取組 内容例

- 学ぶ意欲のある高校生が、家庭の経済状況に左右されることなく、学習習慣の定着、学習時間の増加、学びへ向かう姿勢の確立ができるよう、放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**、探究活動の深化による**多様な進路に向けた支援**を行う。
- ・ 学科・コースの再編、学校設定科目の新設
 - ・ 域内の教育環境向上に貢献する取組 (遠隔授業、教員研修拠点等)
 - ・ 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用
 - ・ グローバル人材育成に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

②高等学校教育改革加速に係る伴走支援事業 令和7年度補正予算額 5億円

改革先導拠点の着実な実施にあたり、都道府県の進捗の確認・評価を行うとともに、類型ごとに、ノウハウの共有・専門家による支援を行う。

対象

- ①都道府県
- ②民間

補助率
等

- ①10分の10

補助
対象経費

- ①改革先導拠点の創出に係る経費 (人件費、旅費、謝金、設備・施設整備費等)
- ②高校教育改革加速に係る伴走経費 (人件費、旅費、謝金、備品・消耗品費等)

事業スキーム

文部科学省

基金造成経費を交付

都道府県

※都道府県事務費も措置

(出典)
文部科学省

(担当：初等中等教育局参事官 (高等学校担当) 付)

高岡工芸高校 (工業科)

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

現場をリデザインし、イノベーションを生み出す
「地域共創・未来変革エンジニア」の育成

【21.1億円】

～地域に息づく“クラフトマンシップ”を継承し、先端工業の実装と他者との協働による「リアルで実践的な」学びへの変革～

1 「とやま型デュアルシステム」の構築

- (1) 学校内の授業での理論的な学びと企業等での実践的な学びを組み合わせる実施
- (2) 「地域産業成長プラン」の重点分野等をテーマとした課題研究

2 リアルで実践的な学びを実現するカリキュラムの構築

週1回6時限を丸ごと実践的な学びに活用する「CROSS共創DAY」等の創設

3 工業科のイメージの「リデザイン」(普及啓発の取組み)

4 「地域共創・未来変革」の拠点「クロス共創ラボ」の整備

- (1) 「地域共創」棟(企業とのコワーキングスペース等:新設)
- (2) 「未来変革」実習棟(既存棟へのシミュレーターや高性能装置等の導入)

富山商業高校 (商業科)

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

アントレプレナーシップとAI・データサイエンスを武器に、
本県産業の基盤を支え、未来を切り拓く人材の育成

【17.4億円】

～実践×デジタルの“アドバンスト商業”の展開～

1 クロスカリキュラムでの学習

企業等でのテーマ別実習プログラム+店舗型実習施設での経営学習

2 専門科目の改革～アドバンスト商業教育の展開～(データサイエンス・AI等活用)

3 現場での実践と主体的な学びにより生徒の自己実現を支えるカリキュラム構築

- (1) 週1回6時限を丸ごと実践的な学びに活用する「CROSS共創DAY」等の創設
- (2) 教育課程の柔軟化による自主活動促進「未来探求タイム」の創設

4 新たな学びのための拠点「TOYAMA Nexus HUB」の整備

- (1) データサイエンスルーム(改修) (2) Nexusルーム(授業等配信:改修)
- (3) 探究ルーム(改修) (4) クリエイティブ・ラボ(新設:共創エリア・店舗型実習エリア)

魚津高校 (普通科)

理数系人材育成支援

理数系重視の入口から出口までの一体改革による質的転換で、
理数系人材の裾野を広げ高みを目指す普通科高校を創出

【12.2億円】

1 全生徒の理系的資質の開発のためのカリキュラム・マネジメント

3年次からの文理分けを前提とした教育課程、1・2年次の理数探究、
文理融合型探究活動を拡充

2 理系分野に対する興味・関心が高い生徒に向けた取組みの強化

(1) 高等教育機関等へのインターンシップの実施

(2) 科学系部活動「サイエンス部」の新設

(3) 入学者選抜における理数系科目重視型選抜の検討

3 文理融合型探究活動を核とした授業を支える施設の整備

- (1) 探究棟(新設) (2) 特別教室等(改修)

小杉高校 (総合学科)

多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

柔軟な教育課程と学校外のリソースを活用し、
ウェルビーイングな学びの場を創出

【11.3億円】

1 教育課程の柔軟化と「余白の時間」による自主活動の促進

(1) 「ミラパス」(自らの意思で未来を切り拓く時間)での多様な自主活動の充実

(2) 地元企業や行政機関など、地域と連携した課題解決型学習の展開

2 多様な学びの拠点「ココ・テラス」の新設(地域連携フロア、多様な学びフロア)

3 AI・デジタル活用による個別最適な学びの推進

4 外国人生徒支援のための教材開発や指導体制の構築等

5 外部人材による多層的な生徒支援(学習メンターによる学習支援等)

富山県「高校教育改革実行計画」検討会の予定

第1回（8月6日） 総論・方向性

今回

第2回（9月30日） 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化／地理的アクセス・多様な学びの確保

第3回（10～11月予定） 専門高校の機能強化・高度化

第4回（12月予定） 総括・高校教育改革実行計画案

（令和9年1月予定） パブリックコメント

（令和9年3月予定） 総合教育会議

計画策定

新しい学校のイメージ・中核となる3つの施策

視点1

不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

視点2

我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

視点3

一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

① **専門高校の機能強化・高度化**
(アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成など)

② **普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化**
(文理の双方の素養を有する人材の育成など)

③ **地理的アクセス・多様な学びの確保**

※①～③の取組みの一環としての留学支援等グローバル人材の育成支援、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援

② 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
（文理の双方の素養を有する人材の育成など）

AIやデジタル技術を駆使しながら、文理の区分にとらわれない幅広い教養と科学的思考力を備えた新しい価値を創造する人材、問題解決や探究活動を通じた理数の学びをこれからの経済・社会の発展につなぐことのできる人材、問題発見・解決能力を備えたグローバル人材の育成

産業界や大学等と連携・協働しながら、実社会につながる生きた授業の実践、文理横断的な学びを支える充実した施設設備の高度化

＜取り組み例＞

実社会につながる生きた授業の実践	理数系教育に重点を置いたカリキュラム編成、多様な視点からアプローチする文理横断型の授業の展開、地域社会の課題や魅力に着目した探究活動
高度実験環境を核とする理数探究拠点整備	生徒の興味・関心に応じた主体的な探究活動を進めるための理科実験室・「DXラボ」の高度な実験機器・情報機器を授業の内外で活用、外部人材等の支援員による継続的な指導・支援 他校の生徒や中学生への利用機会提供、高度な機器環境を生かした教員研修
探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築	課題設定、仮説立案、観察・実験による検証、考察や成果発表に至る探究プロセスを一貫して指導できる力の育成・向上 理数担当の教師を中心に他教科担当の教師や支援員が連携・協働し探究活動を伴走支援する専門チームの構築

③地理的アクセス・多様な学びの確保

自身の興味・関心等に応じた学びや探究活動により、自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる人材や、デジタル技術を活用し学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材の育成

産業界や大学等と連携・協働しながら、柔軟で質の高い学びの実践、全ての生徒のニーズや学びを支える充実した施設設備の高度化

<取り組み例>

学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保

中山間地域等の学校、学習進度・学習理解の程度が大きく異なる生徒や不登校生徒など多様な生徒への対応のための学校間連携やデジタル技術の活用による遠隔授業の充実・強化
オーダーメイドの時間割での多様な学習ニーズへの対応、全日制・定時制・通信制の垣根を超えた柔軟な教育課程

学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供

場所・家庭環境、不登校経験等、多様な背景等にかかわらず、心理的にも安心して必要な学習を行えるようデジタル技術の活用
産業・福祉部局や、医療・福祉施設、産業界等からの専門人材派遣など連携・協働による一人一人の生徒の状況に応じた学習環境の提供

他の学校種との連携の充実

小中学校・特別支援学校等、他の学校種と連携
学校種の垣根を超えた教職員研修や相互理解のための機会の設置

中核となる3つの施策のポイントと思われること

- ・ 教育現場に大きく踏み込んだ、産業界（企業）、大学、地域等との具体的な連携による実践的な学びの活動
- ・ AIやデジタル技術の駆使（施設設備の高度化を含む）
- ・ 生徒本位の横断的な取組み
学校や地域横断、分野横断（教育⇔他分野、教育内部（学校種等））
- ・ 生徒、保護者、学校関係者等の意識改革、高校の取組みの共有・理解醸成

方向性、中核となる3つの施策の具体化の検討にあたりご意見・アイデアをいただきたいこと

(例えば以下の事項)

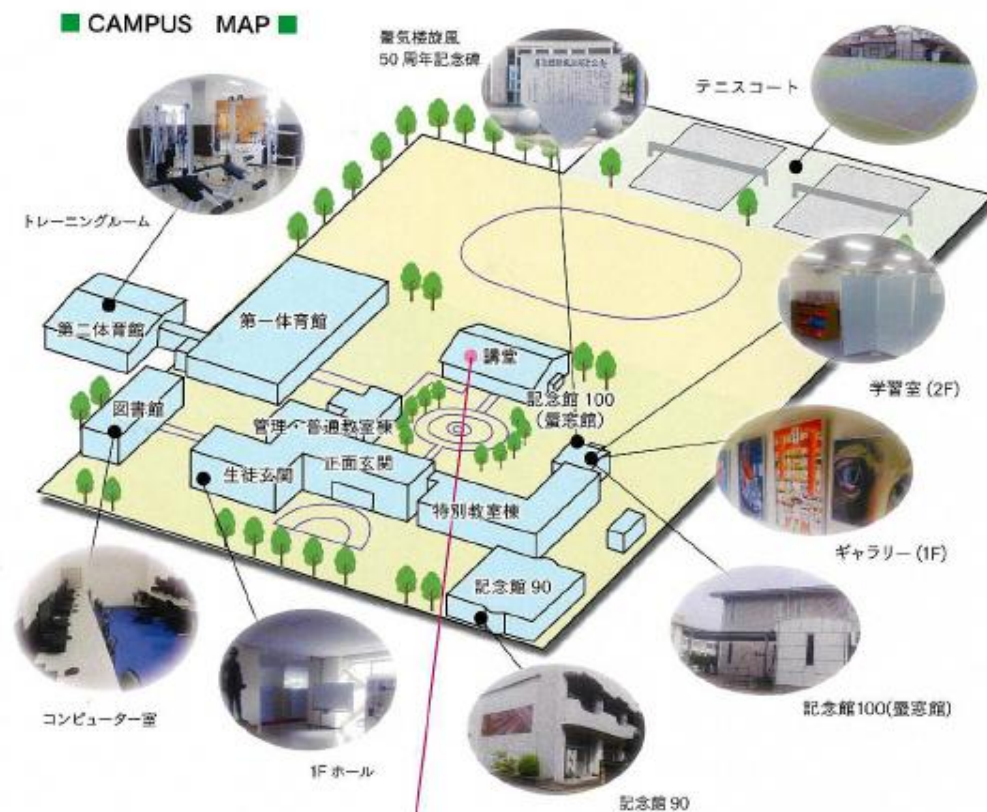
- ・ 探究活動の深化、実践活動との連環
 - ・ これまでよりも一歩踏み込んだ高校生と企業・地域・大学等との連携・協働（ものづくり、建設・インフラ、交通、福祉・医療、農業、商業、観光等）の創出、既存の取組みの深掘り、高校×企業とのコラボレーションの広がり
 - ・ 企業ニーズ、負担も考慮しつつ、単発的なことだけではなく、継続的な実践活動
 - ・ キャリア教育～地域人材確保までの、大学等や企業等との連携
 - ・ 高校教育との協働を支持・支援する企業や地域等による協働体制の構築
 - ・ デジタル技術・機材もふんだんに活用したデジタル教育・人材育成の充実
 - ・ 主体的な学びの推進、非認知能力、コンピテンシー（異質な人々から構成される集団で相互にかかわり合う力、道具を相互作用的に用いる力、自律的に行動する力）の向上
 - ・ 多様なニーズに対応した教育機会の確保（外国人生徒、不登校対応等含む）
 - ・ 小中、高校、大学など学校種を超えた取組み
 - ・ 県民への高校教育や改革に関するわかりやすい情報発信
 - ・ 教員、保護者、生徒等の意識改革
 - ・ 生徒のウェルビーイング向上
- ・ 「こどもまんなか」の視点
 - ・ 教育現場の負担を軽減
 - ・ 生徒、学校、企業・地域等の三方よし

魚津高校

(魚津市吉島945番地)

- ・ 普通科 4 クラス／学年
- ・ 生徒在籍数

学年	男	女	計
1	85	67	152
2	88	70	158
3	85	73	158
計	258	210	468

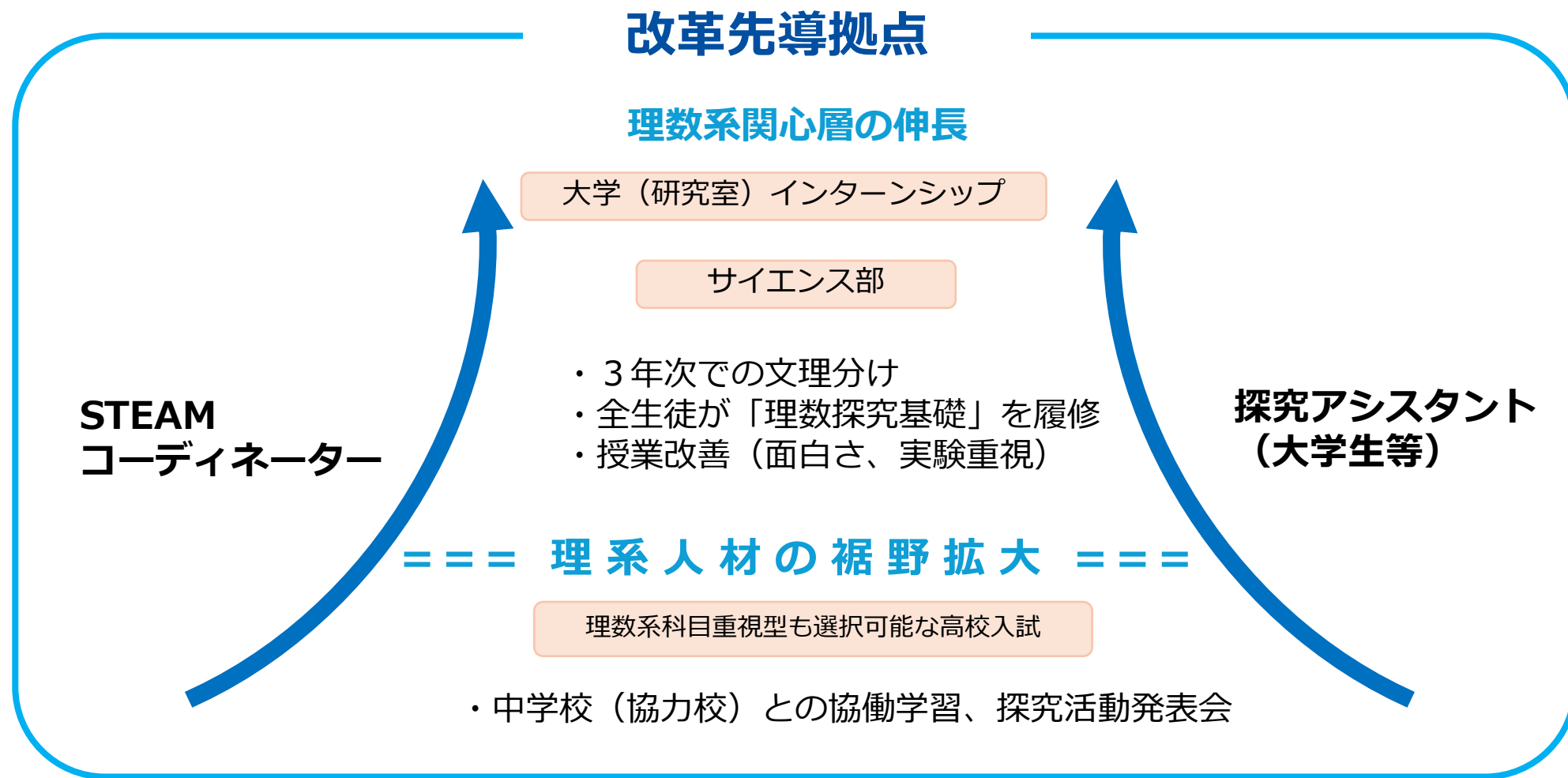


魚津高校の講堂は国の登録有形文化財（建造物）に登録されています。



【理数系人材育成支援】

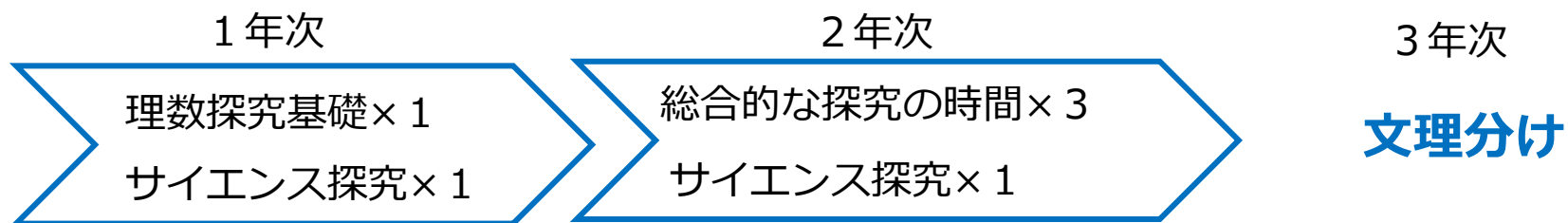
理数系重視の入口から出口までの一体改革による質的転換で、
理数系人材の裾野を広げ高みを目指す普通科高校を創出



取組みの概要

1 全生徒の理系的資質の開発のためのカリキュラム・マネジメント

3年次からの文理分けを前提とした教育課程、1・2年次の探究活動を拡充



STEAMコーディネーター配置：授業計画の立案、大学・企業等との調整
探究アシスタント配置：大学生、大学院生等による探究活動への支援

理数探究基礎

探究活動の基本的な知識・技能（AIやデータサイエンス等）に関する講義・ワークショップ、フィールドワーク等

サイエンス探究

様々な社会問題への解決に向けた科学的アプローチや最先端の科学技術に関する講演・ワークショップ等

総合的な探究の時間

文系テーマに対する理系アプローチ・解決など文理融合型探究活動、ゼミ形式の少人数指導

→ 大学、企業、自治体等から講師、伴走者・助言者等を招聘

取組みの概要

2 理系分野に対する興味・関心が高い生徒に向けた取組みの強化

(1) 高等教育機関等へのインターンシップの実施

長期休業中に大学等に1週間程度通い、学術研究や最先端の研究テーマ、観察・実験器具など理工系学科の学びを体験

(2) 科学系部活動「サイエンス部」の新設

科学への好奇心と探求心を高めるため、部活動を設置し、大学や民間企業等からの指導・助言も得ながら、科学甲子園などの全国大会を目指すなど高度な研究活動を充実

(3) 入学者選抜における理数系科目重視型選抜の検討

学力検査の各教科の配転が、通常の配点による選考に加え、志願者が選択して出願できるよう、理科・数学・英語の配点に傾斜をかけた理数系科目重視型選抜の設定を検討

3 文理融合型探究活動を核とした授業を支える施設の整備

(1) 探究棟の整備

(2) 特別教室等の改修

取組みの概要

4 推進体制

(1) 魚津高校理数系人材育成推進プロジェクト会議

学校、県教委、大学、地元産業・行政関係者等による定期的な会議

→ インターンシップ、探究活動、講演会・ワークショップ等について、計画的・継続的に協議

(2) STEAMコーディネーター、探究アシスタントの配置

STEAMコーディネーター：授業計画の立案、大学・企業等との調整

探究アシスタント：大学生、大学院生等による探究活動への支援

5 取組み・成果の他校への普及

(1) カリキュラム改革、探究活動の知見・ノウハウを他校と共有

(2) 協力校との連携・協働

魚津市立東部中学校・西部中学校

- ・「探究棟」での観察・実験器具の共同活用（中学校での授業等で利用）、協働学習（探究活動、観察・実験）
- ・探究活動の成果発表会への招待、ポスターセッション・プレゼン等を通して交流 等

取組みの概要

6 改革の目標

指 標 例	現状（R7）	R10目標	R13目標
理数系科目に関心がある生徒の割合（１年生）	41.5%	50%	65%
科学技術に対する肯定感・効力感を感じている生徒の割合（２年生）	R⑧に調査	R⑧から + 10pt	R⑧から + 20pt
大学理系学部進学者割合	49.3%	55%	65%

7 目指す成果

- ・ 地域・産業界が求める理数的素養を持つ人材を輩出
- ・ 文理融合の思考力を持つ人材を育成
- ・ 県全体の進学指導の質的転換
- ・ 理数系重視モデルの県内他校への普及
- ・ 産学官連携の高校探究教育モデル創出

小杉高校

(射水市三ヶ1520-1)

・ 総合学科 4 クラス／学年

・ 生徒在籍数

学年	男	女	計
1	4 5	1 1 5	1 6 0
2	4 1	1 0 7	1 4 8
3	4 8	9 8	1 4 6
計	1 3 4	3 2 0	4 5 4



- 生徒一人ひとりの**強み・関心の発見・伸長**や、主体的な進路形成につながる**柔軟な教育課程**の整備が求められている。
- 不登校傾向の生徒や特別な支援を要する生徒、外国人生徒など**多様な背景を持つ生徒への支援体制**が未整備。
- ➡ **多様な背景を持つ生徒の主体的な学びの実現のため、「柔軟な教育課程の整備による余白時間の創出と自主活動の促進」、
「多層的な支援体制の構築」などにより、柔軟な教育課程と学校外のリソースを活用し、ウェルビーイングな学びの場を創出する高校の
パイロットケースの創出・普及に取り組む。**

人材育成の現状・課題

- 急増する外国人生徒や特別な支援を要する生徒への支援体制が未整備
- カリキュラム・オーバーロードを変革し、生徒の余白を確保
- 県立高校における個別最適な学びの提供が不十分

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】

- ①進路に満足している生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%
- ②「自主活動：ミラパス」の時間の学びが充実していると感じる生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%

【取組内容・創出するパイロットケース】

(教育改革の内容)

- ・教育課程の柔軟化と「余白の時間」による自主活動の促進
- ・AI・デジタル活用による個別最適な学びの推進
- ⇒ **ウェルビーイングな学びの場**を創出

(施設・設備の整備)

- ・次世代ラーニング・ハブ「ココ・テラス (COCO Terrace)」の整備
- ⇒ **外部専門人材を活用した多様な学びの拠点**の整備

【他校への普及方策】

- ・カリキュラム開発、多職種連携の円滑な運用フロー等に関する研修会の実施
- ・日本語指導カリキュラムのオープンソース化

【その他】

- ・地域連携コーディネーター、大学生や教員OB等による学習メンター、NPO法人等と連携し、
多層型学習支援プロジェクトを展開

「ウェルビーイングな学びの場」 ～余白の時間と学校外との連携～



実施体制

協力校	高志のあかり中学校 (令和9年4月開学) 上市高校、富山いずみ高校
主な連携機関 等	富山大学、富山県立大学、関係自治体、NPO法人等

目指す成果

- 生徒への**個別最適な学び**の提供と**余白時間**の創出
- 教育課程の柔軟化**やAI活用モデルの横展開
- 多様な背景を持つ生徒の社会的自立の実現
- 県全域の外国人生徒支援体制を底上げ

1 教育課程の柔軟化と「余白の時間」による自主活動の促進

(1) 自らの意思で未来を切り拓く、「余白の時間」創出

卒業に必要な修得単位数を減らし、一斉授業ではない「余白の時間」を創出

(2) 「ミラパス」(自らの意思で未来を切り拓く時間)での多角的な自主活動の充実

学校設定科目など単位認定を行う科目のほか、

- ・大学生等を学習メンターとした地域連携学習支援活動「TERAKOYA」：**生徒の習熟度に応じた個別伴走型学習支援**
- ・外国人生徒のための日本語教室
- ・不登校生徒の支援
- ・異学年学習交流、部活動、多文化交流、文化活動

など、校内の枠を超えた多様な選択肢のなかから、**生徒が主体的に選択**

→主体性、協調性、コミュニケーション能力などの非認知能力も育成

(3) 地域連携課題解決型学習の展開

地元企業や行政機関等とのパートナーシップのもと、実社会の課題を解決する伴走型の学習を展開

2 多様な学びの拠点「ココ・テラス」の整備

学習支援、協働学習、地域との連携拠点を校内に新設

①地域連携フロア・・・TERAKOYA、地域連携課題解決型学習のためのコワーキングスペース
地域交流・文化活動等のための多目的ホール

②多様な学びフロア・・・日本語学習教室、特別な支援を要する生徒、不登校生徒支援のためのパーソナル・ルーム等

3 AI・デジタル活用による個別最適な学びの推進

AI教材（アダプティブ・ラーニング）の導入、生徒個々の習熟度に応じた個別最適な学びを提供

4 その他

- ・外国人生徒支援のための教材開発や指導体制の構築
- ・遠隔教育システムの活用
- ・外部人材や専門人材を活用した多層的な生徒支援 等

取組みの概要

4 推進体制

(1) 小杉高校多様な学び推進プロジェクト会議

学校、県教委、大学、地元産業・行政関係者等による定期的な会議

→ 課題解決型学習、交流活動、学習支援等について、計画的・継続的に協議

(2) 地域連携コーディネーター、学習メンターの配置

地域連携コーディネーター：地域活動の計画立案、大学・企業等との調整 等

学習メンター：大学生や教員OB、地域住民等による学習支援・進路相談

5 取組み・成果の他校への普及

協力校との連携・協働

高志のあかり中学校、上市高校、富山いずみ高校

- ・オンライン教育を活用した相互履修制度の検討、日本語指導教材開発
- ・教員研修会、生徒主体の成果発表イベント等 等

6 改革の目標

指 標 例	現状（R7）	R10目標	R13目標
個々の習熟度に応じたAI教材の活用	—	80%	90%
卒業時点における進路未決定者の割合	0%	0%	0%
「ミラパス」の時間の学びが充実していると感じる生徒の割合	—	80%	90%

7 目指す成果

- ・ 生徒への個別最適な学びの提供
- ・ 教育課程の柔軟化、AI活用モデルの横展開
- ・ 多様な背景を持つ生徒の社会的自立の実現
- ・ 外国人生徒支援体制の底上げ 等